

東邦キャンパス

平成 23 年 (2011 年) 1 月 1 日

発行 学校法人 東邦学園

〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘 3 丁目 11 番地

TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

H P  検索  愛知東邦大学
東邦高等学校

就業力を!

大学は育成支援事業の対象校に

新年、おめでとうございます。学園は今春、創立満88年を迎えます。人生で言えば「米寿」。時代を越えて歩んでこられたのは、さまざまな方に支えられつつ、社会の要請に応じてきたからでしょう。

今、最も求められるのは「就業力」です。働くことを通じて社会に貢献しようとする意欲と力を、学生・生徒に身につけてもらうことです。上の写真は愛知東邦大学が一昨年から始めた1泊2日の研修「就職合宿」です。3年生を対象に面接やプレゼンテーションから着こなし、マナーに至るまで学びます。

昨年秋に愛知県・三ヶ根山で4回開いた合宿には、経営学部82人、人間学部89人が参加しました。超氷河期の就職戦線は、生やさしい努力で乗り切れません。でも、黒っぽいスーツに身を包んだ学生は、まず意識から一挙に高めたようです。(5ページに関連記事)

こうした取り組みを後押ししてくれるように、愛知東邦大学は文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」の対象校に選ばれました。選定されたのは全国の大学の2割です。(4～5ページに関連記事)。さらに東邦高校ではキャリア教育の充実も念頭に、校務組織を改編して、新たな進路指導室を設けることを決めました。

高校と大学が手を携える行事が活発です。右の写真は昨年8月末、高校の中庭で開いた「納涼音楽祭」です。吹奏楽の演奏や盆踊りを、地域の方々が楽しんでくださいました。また、高校生が大学で学ぶ高大連携授業も9月に行われました。(12ページに関連記事)





年頭所感



高校卒・大学卒に 相応しい「質の保証」を

東邦学園理事長・東邦高等学校校長
榎 直樹

明けまして、おめでとうございます。

昨年はいろいろなことがありましたね。気温は観測史上最高を記録し、熱中症で倒れる人が相次ぎました。就職戦線は超水河期と呼ぶべき状況です。リーマンショックが癒えぬうちに1ドル80円台に直面し、輸出企業が大打撃を受けたからです。

明るい話題も思い出します。小惑星探査機「はやぶさ」は7年余を飛行した末に、30億kmも離れた「イトカワ」から微粒子を持ち帰りました。卓越した技術力を世界に印象付けると共に、絶対諦めなければ物事は成就するのだと勇気付けてくれたと思います。「沈みがちな日本」を奮い立たせた快挙、私たち愛知東邦大学の髙木靖彦教授も重要な役割を果たし、国から感謝状を贈られました。

今年はどんな年になるのか？ 私たち学園にとっての使命は、生徒と学生をしっかり育て、希望と適性に見合った進路先に送り出すことです。

このページの裏側、表紙の写真をご覧ください。愛知東邦大学が昨年度から3年生に課している就職合宿の様子です。就職戦線が極めて厳しい事情もありますが、学校は今や「入口＝入試の偏差値ランキング」よりも「出口（進路）＝進学先、就職先」を問われる時代

になったからです。高校3年間、大学4年間での教育や仲間との交流を通じて学力、コミュニケーション力、幅広い視野などを最終的にいかに身に付けてくれたか、そこが最も大切だということです。就職にこぎつけるまで、とことん面倒をみようと思宿を始めました。

このような取組みを、教育界は「質の保証」と呼びます。生徒・学生はどこまで学んだか、教職員は弛みない努力と創意を重ねて修得を手助けしたか、双方に求められる課題なのです。

高校生や大学生の「質」が保証されているか否かを判定するのは、社会でしょう。大学にとっては就職率という厳しい物さしがあります。また退学率や留年率も近々に公表が義務付けられそうです。必ずしも退学生や留年生が多いほど良くない大学だと決めつけられませんが、一つの社会的評価にはなります。

高校では数年前から、全国共通の「高大接続テスト」によって、高校生の学力の質を審査する可能性があります。3年生に年数回のテストを実施、いずれかに合格しなければ、大学入学資格が与えられない制度が検討されています。フランスはバカロレア、米国はACTやSATの名で導入しています。「東邦高卒」と認定されても、このテストに合格しなければ、大学に進めないわけです。

大学にとっても、安直な試験による学生確保はできなくなります。「高大接続テスト」をパスしてきた生徒しか受験させられないからです。

どんな仕組みができようとも、私たちは高校生、大学生に相応しい質を身に付けるよう、真摯に教学活動をすすめていこうということです。

高校普通コースの改革

高校教頭 長沼 均俊

2011年度の入学生から、普通科普通コースが変わります。本校の生徒集団としてもっとも大きな学科である普通コースには、多様な生徒が在籍しています。クラブ活動への参加も含め、学校生活も進路目標も様々です。そこで、このような多様な生徒たちのニーズに応えるために、現在の2コースの類型を3コースに拡充します。

その3コースですが、「アクティブコース」は、文系32単位のカリキュラムでキャリア教育を今以上に重視し、生徒一人ひとりの進路目標を明確にして必要な学力とスキルを身につけていきます。「サイエンスコース」と「チャレンジコース」は、ともに34単位のカリキュラムとなり理系・文系における、より高い進路目標に挑戦するコースです。

いうまでもなく3つのコースは、すべてクラブ活動と勉学の両立を図ることを念頭においています。普通3コースは、「文武の兼備」を体現するまさに東邦をかたちづくるコースとして新たなスタートを切ります。



先を見て今を生きる

愛知東邦大学学長

山極 完治

愛知東邦大学は10年の節目を終えて、新しい時代を迎えます。

創立者の系譜をたどると、そこには際立った特色があります。

一つは、教育重視の成り立ちです。創立者下出民義自身が、教育者に始まり教育者に終わる人生を歩んできました。15歳にして小学校の教壇に立ち、現在の関西大学の夜間部で学びながら小学校長を務めていました。こうした体験も影響してか、学園史には夜間高校や定時制高校を開設し、働く者たちへの学びの場を提供してきた歴史が刻まれています。実業家として大成し、政治家としての経験も織り交ぜ、再び晩年、私財をなげうって東邦商業学校を設立しています。

創立者は、教育を私事ではなく、公事というより天職だとし、人間にとって教育がいかに大事な職業であるか、を説いています。東邦教育の根っこにはこうした精神があります。

もう一つの特徴は、地域の職業人材の育成です。創立者は、「真に信頼して仕事をまかせうる人格の育成」を建学の精神にしています。愛知石炭商会にはじまり、名古屋電燈、名古屋電気鉄道、そして大同製鋼など次々に中部の近代産業を興し、地域経済の活性化に大きな足跡を残しました。今でも、現役で働く発電所があり、大同特殊鋼としてその歴史を引き継いでいます。こうした地域社会で仕事をまかせうる職業人材の育成が創立者の強い思いでした。この精神が、東邦学園短期大学へ襷が渡され、今、愛知東邦大学がこれを継承しています。

こうした学園の歴史と特色を引き継いで、その集約されたところに本学の新しい教育改革があります。新年から本格始動する「就業力育成支援事業」の取組みがそれです。(関連記事4～5ページ)



小惑星探査機「はやぶさ」の研究開発貢献で感謝状

昨年の6月に数々の苦難の末、地球に帰還した探査機「はやぶさ」。オーストラリアの砂漠に落下したカプセルから小惑星「イトカワ」のサンプルが回収され、大きなニュースとなりました。

本学経営学部 高木靖彦教授は、この計画の開始以来、その開発や得られた結果に基づく研究に携わってきました。その功績に対して、このたび高木義明文部科学大臣、海江田万里宇宙開発担当大臣から、貢献した大学・企業のひとつとして、愛知東邦大学に感謝状が授与されました。

高木靖彦教授の研究は、微小重力実験を用いたクレーター形成過程の研究、および、惑星探査(特に小天体探査)に関連した研究です。「はやぶさ」計画の萌芽期である25年前からずっと小惑星サンプルリターンに関わり、サンプラー開発をはじめ、「はやぶさ」のサイエンスで広く活躍しています。現在は「はやぶさ2」計画で検討している人工クレータ生成のサイエンスを強力に推進しており、今後の研究・開発にも期待が寄せられます。



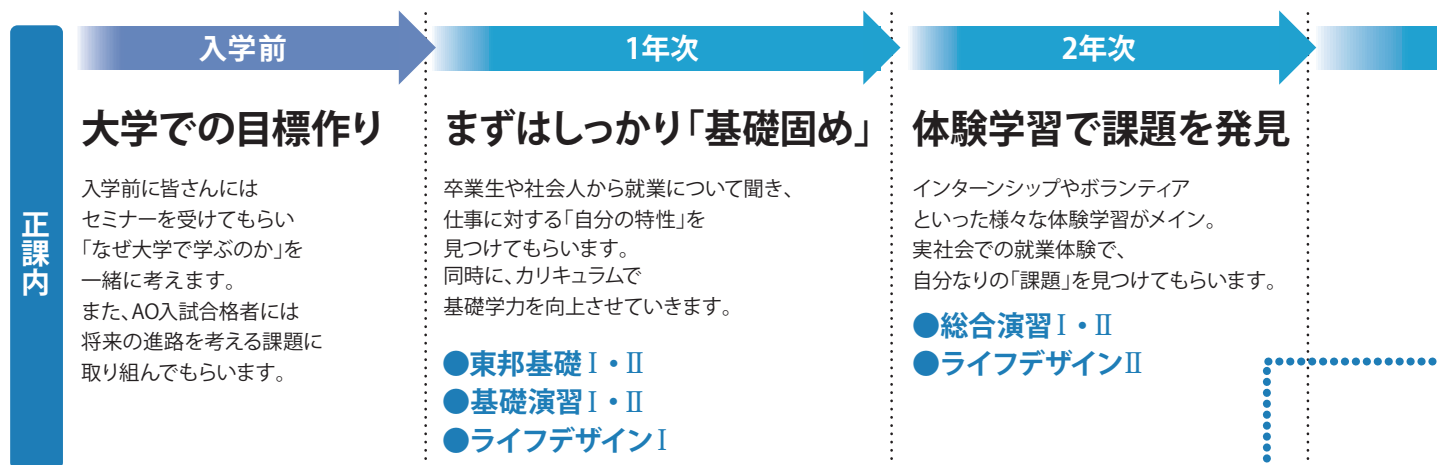
愛知東邦大学の教育プログラム 就業

キャリア支援委員長 深谷 和広

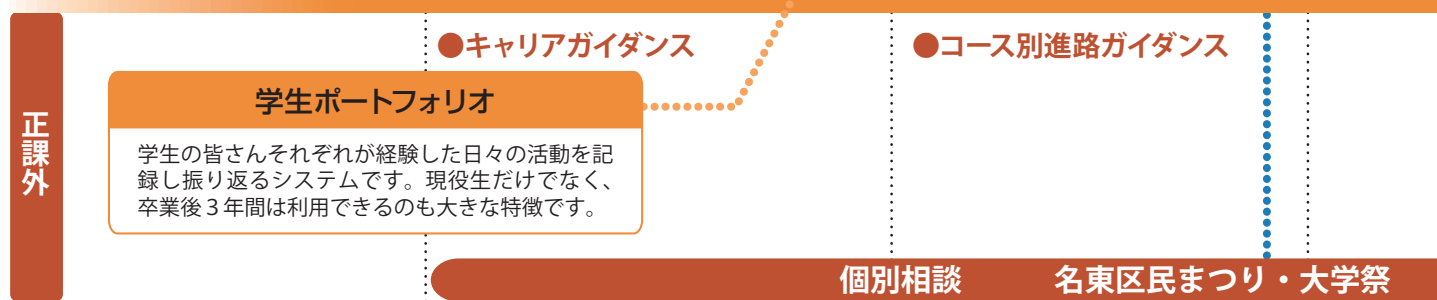
9月末、文部科学省より就業力育成支援事業（GP）について採択される旨の通知を受け取ることができました。本事業「“地域連携PBL”を核とした就業力の育成」は、単なる就職支援に留まるものではありません。大学における全学的体系的な「教育改革」の取組みを支援するという趣旨のものです。今回の通知は本学の取組みが社会的に認められたものといえます。本年度より5年間にわたり本学の「教育改革」が促進されると共に、その結果として学生の就職への効果も大きく期待されます。

本学の「就業力育成」の骨子は「入学前から卒業後まで生涯にわたるキャリア形成」と「正課内外の教育を通じたキャリア支援」を総合し、自立した職業人の育成を目指す教育プログラムです。このプログラムを通じて「就業力」を育成します。

■ 就業力育成教育プログラム



学生ポートフォリオ（TOPOS）



個別相談

名東区民まつり・大学祭

インターンシップ実習を終えて

キャリア支援委員 手嶋 慎介

本年度のインターンシップでは、21人の学生が8月から9月に各事業所でお世話になりました。ゼミ担当教員による実習先訪問なども行われ、充実したものとなりました。特に経営学部3年生の2人・人間学部3年生の1人は、本学のインターンシップの特色のひとつである4週間の長期実習をやり遂げました。就職活動

に向け、活躍が期待されます。

インターンシップ実習を終えた学生諸君のレポートは『インターンシップ報告集 2010』として取りまとめました。最後に、学生を受け入れていただいた実習先の方々に厚くお礼申し上げます。



力育成支援事業(GP)に採択される!



地域連携PBL Project Based Learning

地域社会の様々な課題に皆さん自身が取り組み、解決を図っていくカリキュラムです。自分自身で課題を決め、解決のための計画を実行していきます。

- 旅行会社と連携した就職のための**企業研究ツアーの企画運営**
- 町の**商店街の活性化**と繁盛店作り
- **NPOと連携したマーケティング**
- 地域・行政・施設等と連携した健康・福祉・社会スポーツの**普及啓発活動**
- **地域の保育参加**
- **学内起業**(経営・営業・経理・総務実務)



3年次

4年次

卒業後

地域との連携で「就業力」獲得へ

この時期からは、自分自身で地域社会の課題を解決する「地域連携PBL」が始まり、大学の講義で学んだ知識を応用する能力を磨いていきます。
3年次は入門編、4年次では本格的に取り組んでいきます。
こうした地域社会での豊かな経験が、皆さんの「就業力」となっていくのです。

- キャリアデザイン
- インターンシップ
- 東邦プロジェクト I・II

地域連携PBL 入門・実施

- PBL成果の発表
卒業研究・評価活動

就職してからも続く
安心のサポート

就業力の獲得

就業力マイスター奨学生制度

- 就職ガイダンス
- 就職合宿
(2009年度文部科学省
「大学教育・学生支援推進事業」
[テーマB] 採択事業)

- 未内定者就職支援企業展
- 就職未内定者ガイダンス

就業力マイスター奨学生制度

就業力育成教育プログラムの正課内・外での活動を総合的に判断しマイスター奨学生と認定する制度です。

- 卒業・就職後
3年間サポート

就職後3年間は
仕事での問題があれば
サポートも行います。

就職支援ピアサポート(東邦職 Do!!)

ピアヘルパー

今年度も就職合宿を全3年生対象に実施しました!

就職課 貫名 正樹

着慣れないリクルートスーツに身をつつみ、就職活動に向かう上での心構えと具体的な準備について2日間みっちり学びました。

研修で実施した模擬面接では戸惑う姿を多く見受けましたが、集中的な講義・グループワークを通して、翌日に行われた模擬面接では前日とはまるで別人のような姿勢や受け答えで面接に臨む

姿を数多く見かけることができました。学生からも、「言うだけでなく、行動しなくてはいけないと思った」「これから何をすればいいのかわかった」など、これからの就職活動に向け、前向きな決意を聞くことができ、本当に実りの多い合宿になりました。



大学の行事

2010年度

「INVENT」をテーマの和丘祭を終えて

生活支援委員 葛原 憲治

今年の和丘祭(大学祭)は、11月20日(土)・21日(日)の2日間開催しました。19店舗の模擬店に加えて、人間学部と経営学部の両学部合同のインターンシップ報告会、人間健康学科ではゼミ研究展示会や「クロリティー」チャレンジ大会、子ども発達学科では絵画展や折り紙展、地域ビジネス学科ではフットサル大会など、各学部・学科の特徴を生かしたイベントも充実した大学祭だったと思います。また、屋外ステージでは、アーティストライブ、ミスコン、軽音楽部の演奏、カラオケ大会、マジックショー、フリースタイルのダンスパフォーマンスなど多彩な企画内容でした。

今年の模擬店で人気No.1は、男子バスケット部の肉巻きチーズでした。利益はほとんどなかったようですが、味とアイデアは最高でした。そして、イベントで人気No.1は、やはりATTO(愛知東邦トレーナー組織)のリラクゼーションマッサージでした。2日間で約180人の来客があり、低料金で心も身体も癒してくれたことで非常に好評だったようです。

今年のテーマ通り、「新たな発明」と「新たな挑戦」で進化を続けている和丘祭ですが、来年度はさらなるステップアップを目指して、より地域に根差した魅力ある大学祭にしてもらいたいと思います。



模擬店



第2回クロリティーチャレンジ大会

2010年度資格等対策講座

就職課 貫名 正樹

昨今の厳しい経済状況の中、就職活動を有利に進めることを目的に資格取得に励む学生が増加しています。今年度、本学においては資格の取得を目標とした講座を以下の通り開催しています。

- ・国内旅行業務取扱管理者資格
- ・ビジネス能力検定
- ・秘書検定(今年度希望者数不足のため開講せず)
- ・販売士検定
- ・ピアヘルパー
- ・幼児体育指導者
- ・マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト(Word)
- ・マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト(Excel)

中でも、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト講座の人気は高く、近年では毎回20人程度の学生が受講して90%近い合格率となっています。

資格取得は自らのスキル(技能)を証明するものであり、即戦力を期待する企業から注目されることは当然と思われます。スキルの修得とともに、目標を持って取り組むことで社会人として必要な本質的な能力を、学生生活を通じて身に付けてくれることを期待しています。

子ども発達学科

保育・教育実習から学ぶもの

学修支援課 森 美利花

子ども発達学科の学生たちが「あ～緊張する」「どうしよう…怖い」と言いながら行うことの一つに、実習先への電話があります。この電話は実習への第一歩。初めて自分で実習先と連絡を取り、実習前の打ち合わせをお願いするのです。

子ども発達学科では、保育士資格・幼稚園教諭1種免許を取得するために保育所、福祉施設、幼稚園で実習をさせていただきます。実習前には、**かみ**ながらも敬語を一所懸命使って電話をし、服装を正して事前の打ち合わせに伺い、実習中は学生生活とは違う早起きや思い通りにいかない毎日に苦勞をし、実習が終わってから苦手なレポートや実習先へのお礼の手紙を書かなくてはなりません。実習は専門職としてだけでなく

く、社会人としても様々なことを学ぶとても大切な機会となっています。

大学図書館 様々な取り組み

学術情報課 城山 晶子

図書館では「お月見コンサート」「ケータイ写真コンテスト」など、さまざまな催しを行っています。

そのうちの1つ、「読み聞かせコンクール」は11月4日(木)に開催しました。学生が図書館で借りた絵本や紙芝居の読み聞かせを練習し、その成果を発表するものです。

事前に近隣の珉光幼稚園にこのイベントのポスター掲示をお願いしたところ、園児へのお手紙としてチラシを入れてくださり、その上延長保育の園児約20人を連れてきてくださるという素敵な交流がありました。学生も小さな子どもたちに向けての読み聞かせは実習しながらで、今後の学習の励みにもなり、みなさんにも大いに楽しんでいただけたようです。

後日には、地域の方がコンクールで使った絵本を借りに来てくださったりと反響もありました。

大学図書館が、図書館の資料を用いた学習成果の発表の場になり、それが学生の学習意欲の向上、さらにささやかな地域貢献につながればこんなにうれしいことはありません。



館長賞を受賞した、子ども発達学科の持山真さん

絆を深めた野外活動実習

人間学部人間健康学科専任講師 長谷川 望

本年度も人間学部人間健康学科の1年次の導入教育として、8月4日(水)～7日(土)「野外活動実習Ⅰ」



に長野県湯の丸高原へ行ってきました。テント泊や野外炊事、イニシアティブゲーム(課題解決のゲーム)や登山、キャンプファイヤー、クラフトなど様々な活動があります。その活動を通して自分や仲間を見つめなおす貴重な体験をすることができました。この実習で絆を深めた仲間たちと充実した4年間を過ごしてもらいたいと心から願っています。また、実習をサポートしてくれた、人間健康学科の学生スタッフが先輩としてリーダーシップを発揮してくれました。1年生も大学生生活を一日一日大切にして、今回の先輩学生のように活躍する日を心待ちにしています。

2011年度エベレット・コミュニティ・カレッジからのインターンシップ生受け入れ

地域国際交流委員長 今尾 雅博

本学はエベレット・コミュニティ・カレッジ(Everett Community College : 以下EVCC)と以前から交流があり、長・短期留学プログラムにて本学学生の送り出しを行ってきました。この度、2011年6月から約2か月間、EVCC4人のインターンシップ研修生を受け入



EVCCから来訪された先生方との打合せ風景



れることになりました。この受け入れプログラムは米国教育省の2ヶ年にわたる助成によるものです。今回受け入れる4人の研修先については、2010年11月19日(金)、地域国際交流委員会の今尾と阪口の2人が、本学を来訪されたEVCCの真弓・スミス先生他2人の先生方(写真)とともに、受け入れ候補企業を訪問して受け入れの交渉に当たりました。インターンシップ生は本学においても期間中4日ほど交流の予定です。この受け入れにより両大学の交流はいっそう深まることが期待されます。学生諸君はもちろんのこと、教職員の方々も英語でのコミュニケーションができる絶好の機会となるでしょう。

就職までの道のり 後輩へのメッセージ



人間学部子ども発達学科4年 島田 大地



私は、子ども発達学科の1期生でもあり、不安が募る中で就職活動を行いました。初めは、何をしたら良いのか戸惑うばかりで、大学4年間学んだ保育という専門とは異なった一般企業も何社か受けましたが、回を重ねる度に私は、「なぜ子ども発達学科で学ぼうと思ったのか」「この大学4年間でなにを学んだのか」という壁に直面しました。

一般企業の就職活動の最中でも日々、自問自答を繰り返し、考えれば考えていく程、心が押しつぶされそうになったこともありました。

就職活動を精一杯していく中、大学生活の実習やボランティア活動等で学んだ経験を、今後生かしていきたいという思いが湧いてきました。どうしても保育現場で子ども一人一人と関わる仕事に就きたいという思いが明確になり、「保育者になる」と決意しました。

決意を新たに、保育の就職活動に懸命に取り組みました。数々の園見学から始まり、自主実習をさせてい

ただく中で、採用試験に臨むことの毎日でした。試験の結果に落胆することも度々あり、精神的に弱い気持ちになり立ち直れないこともありました。しかし、家族をはじめ、教職員の方々など周囲の方々が懸命にサポートしてくれました。

自ら試行錯誤を重ね、自分らしさを見つけ出し、素直な気持ちで試験に取り組むことができたからこそ、縁ある園の教師として働かせていただくことになり、心から感謝しています。今後も、人と人との関わりを大切に積極的に精進していきたいと思っています。

【後輩の方々へ】

保育の就職活動は周囲より遅いのが現状です。周りの影響に流されず、焦ることなく地道に、粘り強く就職活動を行うことが大切だと私は思います。

一般の就職活動とは違い、専門的な試験(ピアノと弾き歌い、造形、リズム表現、実習等)もあります。日頃から大勢の人前で慣れることも必要です。

様々な経験をすればするほど自らのためになることを胸に、就職活動を乗り越えてください。後輩の方々の活躍を期待しています。

ピアヘルパーの活動



人間健康学科3年 北野 沙恵・伊藤 美穂

ピアヘルパーとは、直訳すると仲間を助けるという意味です。認定を受けるとカウンセラーほどの責任を負わず、同年代の学生の相談、年少の人の学業や進路・人間関係の相談にあたることができます。

本学では昨年度から年に一度、日本カウンセラー協会主催で試験が行われ、昨年は17人が合格し資格を取得しました。

私たちピアヘルパーは春に新一年生を対象に、お昼休憩の時間に学修支援センターで活動しました。学生証明書の発行の仕方を教えたり、パソコン操作の補助をはじめ、新しい環境に戸惑っている人へのお手伝いをしました。

研修会ではサイコドラマを行い、どんな学生にも柔軟に対応できるように学習しました。

しかし残念ながら、私たちの活動は知名度が低く、情報提供の仕方が現在の課題です。

高校の行事

体育祭・文化祭



写真提供：東邦高校写真部

北九州修学旅行

2年学年主任 佐々木 泰裕

11月11日(木)～16日(火)、2年商業科と普通科普通コースの計14クラスが、3団に分かれて3泊4日の北九州の修学旅行を終えました。

全団とも概ね天候に恵まれた旅行でしたが、11日の夜の低気圧通過の影響で、季節はずれの黄砂が降り、山や島々が霞んではっきり見る事ができなかったことが心残りです。

今回の修学旅行は、平和・歴史文化・自然についての学習が目的で、生徒の満足度も高いものでした。

初日は、柳川で船下りを体験した後、宿泊した長崎の稲佐山観光ホテルでは、ホテルから見える綺麗な夜景と被爆体験講話で聴いた当時の悲惨な状況とで、平和について考える良い機会となりました。

2日目、平和集会(写真)を厳かに行之い、平和な世界を築きあげる努力を誓ってきました。その後原爆資料館を見学し、長崎の街の自主研修に出掛け歴史と文化に触れてきました。

3日目、雲仙普賢岳記念館を訪れ、自然災害の恐ろしさについて学び、その後フェリーでカモメの大群に餌をあげながら熊本港に向かいました。阿蘇山の火口見学をして生徒は自然を堪能した1日でした。

最終日は、熊本城を見学の後、太宰府天満宮で各自の合格祈願をしていました。

中国に行くことができませんでしたが、生徒にとっては有意義な修学旅行になりました。



秋晴れの平和が丘秋祭り

生徒会正顧問 岡本 洋美

「わっしょい！わっしょい！」11月第1日曜日の早朝、子どもたちの掛け声が聞こえます。子ども獅子を神社へ奉納するため、愛知東邦大学前の公園へあちこちから自治会ごとのお獅子がやってきます。そして、実行委員長のあいさつとともに、東邦生の司会進行で平和が丘秋祭りが始まりました。



科学研究部の生徒たちによるおもしろ科学実験。べっこうあめ、ポップコーンなどに小さな子どもたちが列をなしています。合唱同好会のバンド演奏やペガサス学童クラブのダンスなどにも大きな拍手が送られました。町内のお父さんやお母さんらが模擬店やゲームの売り子として子どもたちを楽しませています。お年寄りも運営に腕を奮いました。東邦高校と平和が丘学区の協力協同によるこのお祭りも10数回を数えます。お祭りの最後は、東邦の生徒たちも地域の人に混ざって楽しそうに餅投げ。天高い秋晴れに歓声がこだましました。

3丁目自治会長の伊東さんを始め、平和が丘神社の伊藤さん、学区連絡協議会会長の佐藤さんなど数多くの方にお礼の言葉をたくさんいただきました。80kmウォークとBIGFESTIVALが盛大に行われている同じ日に、東邦生たちはこうして地域に貢献しました。

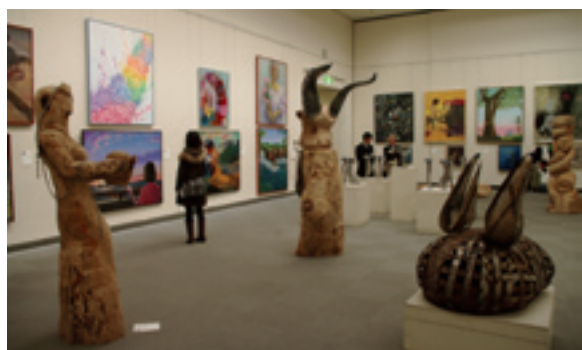
未来の芸術家たち展

3年美術科教諭 小塚 康成

今年で第18回となる「未来の芸術家たち展・美術科、商業科グラフィックデザインコース卒業制作展」が11月23日(祝)から6日間にわたって愛知芸術文化センターにて行われました。学校関係者をはじめ、会期中には1,678人の入場がありました。

今回は、美術科の生徒たちによるギャラリートークを実施し、来場者の前で作品のコンセプトや制作の過程を発表しました。また、グラフィックデザインコースでは3年間の作品ファイルを添えて展示しました。いずれの企画も授業での様子や作品が出来上がるまでの過程が理解できるということで、好評をいただきました。

今回、国際美術展「あいちトリエンナーレ」が行われた愛知芸術文化センターで卒業制作展を行えたこと



愛知芸術文化センターに並ぶ作品たち

は、生徒諸君にとって大きな喜びだったと思います。この展覧会を自信として、卒業後の進路に向けても全力を尽くしてもらいたいと願っています。

国際交流室より

高校 国際交流室長 河野 芳江

2年O組に留学中であった南京外語の、徐さんと楊さんは優秀な成績を残し、7月に帰国しました。修学旅行での再会を双方楽しみにしていましたが、変更になり残念でした。が、国同士の関係がどうであれ、我々の友情は変わるものではありません。入れ替わりに、7月26日には南京市日本研修団120人が来校。引率は南京外語の滕先生。1年M組の生徒と交流しました。

宮田久先生の引率で、7月21日からニュージーランドへ語学研修に出かけていた11人は、8月13日元気に帰国。「とにかく楽しかった!!」と自信にあふれた顔つき。NZの自然と人の心の大きさに、感動した様子でした。この中から、9月のホストを引き受けていただいたり、2年B組の内島さんはマリアンカレッジ留学を決意しました。

9月28日から10月7日にはNZから、シャーリーボーイズとマリアンカレッジの日本研修団18人が2人の先生と共に来校。生徒宅にホームステイしながら、多彩な内容で交流を深めていきました。「やって良かった」というホストの声が多く、ほっとしました。

12月には、去年の体験入学生、オーストラリア育ちの日本人川畑さんが、「楽しかったし友人もできたので」と再入学。2月にはマレーシアとの交流も予定し、輪は大きくなっていきます。



NZからの日本研修団とホストのみなさん



徐さんと楊さん
校長から終了証を

地域創造研究所

大盛況の「みんなで考えよう!地域の元気」講演会

地域創造研究所長 宗貞 秀紀

11月12日(金)には、秋恒例の講演会を開催しました。本学地域創造研究所並びにフレンズ・TOHO共催による本年の講演会は、ホテル名古屋ガーデンパレスを会場として、定員120人を大きく上回り、170人以上の参加者を仰ぎ、マスコミ数社の取材を受けながら盛会裏に終了することができました。

第一部では、本学人間学部の御園慎一郎教授による基調講演を行い、第二部では、同教授をコーディネーターとして、パネリストとしては中部大学服部敦工学博士、愛知県あま市の村上浩司市長、そして、(助)にっぽんど真ん中祭り文化財団 水野孝一専務理事の三者によるパネルディスカッションという展開で進められました。

基調講演を担当した御園教授は、「疲弊した日本の地域社会の実情を事例を入れながら紹介」し、その構造的要因には、「東京を中心とした一極集中型の人材、財源、情報、意志決定機能となっている」ことを掲げ、従来型活性化策では限界が来ていると話しています。愛知県豊川市の地域活性化策として取り組まれている先駆的な事例も紹介し、地域の活力の基は「人財」の重要性について触れました。元気な街には、元気をつくる人物が存在し、地域の活性化の基も、国家運営の基も「人財」であると力説しました。地域の活性化の人材としては「よそ者、ばか者、わか者」が地域を変えるキーワードとなっていることも説明しました。結びとして、「ないものねだり」から「あるものさがし」への移行時期であり、そこに知恵を使っていこうと提言しています。

第二部のパネルディスカッションでは、「みんなで考えよう!地域の元気」というテーマを踏まえた、前記の三者によりそれぞれの分野での取り組み実践例を紹介しました。



満員となった地域を考える講演会

「福沢桃介氏」研究シンポジウム盛りあがる

地域創造研究所顧問 森 靖雄

下出民義と福沢桃介の共同関係を論議

大学祭初日の11月20日(土)、地域創造研究所では中部産業史研究部会が中心になって、本学A203教室で「中部における福沢桃介と下出民義の事業」に関する研究シンポジウムと資料展示会を開催しました。本学園が所蔵する第2次大戦前後の産業資料「東邦学園下出文庫」を活用したシンポジウムで、今回で4回目になります。

この報告会で、明治中期に本学創設者である下出民義氏と組んで、現在の中部電力や名鉄、大同特殊鋼など各社の元になる会社を起した福沢桃介氏(福沢諭吉氏の娘婿)の事業展開の特徴や、そこでの下出民義氏との協力関係などがかなり明らかになりました。やや専門性の高いシンポジウムでしたが、中部地方の熱心な研究者が集まって活発に論議しました。

電力事業を中心に資料展示

このシンポジウムでは毎回関連資料のミニ展示会を開いています。4回目にあたる今回の資料展では、中部産業遺産研究会という民間研究団体の協力を得て、「福沢桃介と名古屋地区産業の近代化」という展示会を開きました。明治末期に長野県南木曽付近に次々と大型水力発電所を建設したり各地に電車をひいたりした記録です。中部電力や名鉄と本学との関係を初めて知った人も多く、パネルを見ながら早速議論が始まる有様でした。



シンポで新しい資料を紹介される榊理事長



展示資料を見ながら議論が始まる

キャンパス短信

法人

「21TOHO教育充実事業募金」

～ご協力に深謝～

21TOHO教育充実事業募金事務局

学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、「21TOHO教育充実募金」活動を展開しております。これまでに多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎の建築や大学新学部の増設およびグラウンド新設のための資金として運用させていただきました。

また本年9月には、高校8回卒業生の仲正興氏が本校を訪問され、300万円の寄付金を頂戴いたしました。皆様方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。

なお、募金についての要項ならびに寄付金の免税措置につきましては、大学・高校の各ホームページにも掲載しております。今後ともご理解を賜り、ご賛同をいただけますよう衷心よりお願い申し上げます。

大学・高校

ゆく夏を惜しむ新校舎の納涼音楽祭

夏休み終盤の8月28日、高校の交流の広場において納涼音楽祭を開催しました。この催しは、高大連携の一環として行われた企画で、大学からは吹奏楽団、高校は吹奏楽部が出演。日ごろ、練習の音響でご迷惑をかけている地域の方々へ、感謝の気持ちも込めて素晴らしい演奏を披露しました。

会場は延べ500人を超える来場者で埋まり、吹奏楽部の迫力ある生演奏とパフォーマンスになるとムードは最高潮。校舎窓に映し出された花火の映像も一役買いました。地域の民謡サークルの盆踊りなども行われたり模擬店が出店されたりして、主催者側の予想をはるかに超える賑わいとなりました。2010年、ゆく夏を惜しむ素晴らしいひとときを地域の方々に十分に楽しんでいただきました。

大学・高校

大学キャンパスで高大連携授業を実施

9月8日、愛知東邦大学キャンパスにおいて、高大連携授業を実施しました。大学の講義に臨んだのは、高校1・2年生の全学科・コース(2年文理特進と美術科は別メニュー)で、1日を2つの時間帯に分けて行われました。これまでも、一部の総合学習で授業が展開されたことはありましたが、2学年にわたるこれほど規模の大きな連携授業は初の試みです。

大学で準備された講座は20講座程で、可能な限り生徒たちの希望に添うよう調整しました。終了後のアンケート結果では、1・2年生ともに満足度はたいへん高く9割を超える生徒が「良かった」と答えています。この高大連携が、本校生の進路意識や学ぶ意識の高まりにつながるのを願って、これからも高大連携授業の充実を図っていきます。



大学の教室に移動する高校生

大学・高校

地域懇談会の開催

大学地域国際交流委員 西 弘美

9月17日(金)に本学において地域懇談会を開催しました。

名東区役所から総務課、まちづくり推進室、近隣地域から平和が丘学区連絡協議会、近隣自治会の方々にご出席いただき、東邦学園関係者(法人・愛知東邦大学・東邦高校)と地域連携をすすめるために「行政と地域と学園のかかわりかた」について話し合いました。

また、大地震に備えた防災についても、現状と今後のあり方について意見交換を行いました。今後も行政・地域・学園が連携し、街づくりに貢献していきます。

大学

学生企画のサッカーイベントが開催される



学生が企画したサッカーイベント（経営学部：愛知東邦大学杯少年サッカー大会、人間学部：TOHOサッカーフェスティバル）を、7月31日（土）本学日進グラウンドサッカー場で開催しました。

経営学部スポーツマネジメントコースの学生が企画した「愛知東邦大学杯少年サッカー大会」は、「スポーツマネジメントに関する知識の実践」「地域貢献」を目的として開催される大会です。今年で4回目となった同大会へは、本学日進グラウンド近郊の小学5・6年生の4チームが参加しました。

また、人間学部の学生が企画した「TOHOサッカーフェスティバル」は、子どもたちに身体を動かすことの喜びやスポーツの素晴らしさを体感してもらうことを目的として開催されるイベントです。今年で2回目となった同イベントへは、本学日進グラウンド近郊の小学1・2年生58人が参加し、暑い中グラウンドで汗をかきながら元気にボールを追いかけていました。



TOHOサッカーフェスティバル

大学

日本通運副社長 伊藤氏 大学で講座

11月26日（金）日本通運株式会社の伊藤康生氏（東邦高校16回卒）を招いて、経営学部特別講座を開催しました。当日は、経営学部3年、今尾ゼミ、田村ゼミ、深谷ゼミ、全体で35人が受講しました。この特別講座では、国際物流事業の現実の姿またその事業の将来性について講演していただきました。参加した多くの学生は国際物流業における日本通運株式会社の役割を理解し、この事業に対する魅力を強く感じる事ができたようでした。

大学

2010年度教員免許状更新講習を実施

学修支援課 齋藤 周一

今年も、愛知東邦大学で教員免許状更新講習が始まりました。今年度は、「教員免許状更新講習の制度が今後どうなるのか」といった論議もあったためか、閉講する大学もあり、心配した名古屋市教育委員会からは開講要請もありました。

そこで今年は、本学の開講講座をすべて受講すれば教員免許状の更新が可能なデザインとし、必修領域を1講座、選択領域を3講座開講しました。また愛知県、名古屋市のすべての中学、高校には教員免許状更新講習講座の開講案内を発送しました。

そのためか、9月16日の受講受付初日だけで定員をオーバーする結果となり、4講座とも満員御礼の講座になりました。

担当される本学の教員も、大学生とは全く異なる雰囲気を受講生に専門分野を熱く語り、手ごたえを感じていた様子でした。

高校

第5回中学生英語スピーチコンテスト

英語科教諭 伊藤 保憲

11月3日文化の日に行われた中学生英語スピーチコンテストには、愛知県、三重県の中学校44校から164人が出場しました。例年約100人のお申し込みをいただいていたのですが、今年度はこれまでよりも大幅に出場者が増え、本校の英語スピーチコンテストが定着してきたことがうかがわれます。

このコンテストは中学生の英語学習の成果を発表する場として、また、将来の国際社会を担う中学生の関心を高める場として始まりました。第1回の開催のときには約80人の申し込みだったことを思うと、5年の間にこの英語スピーチコンテストは大きく成長したと言えるのではないかと思います。

この間、本校のコンテストの趣旨にご賛同いただき、ご後援をいただいた各団体の方には感謝申し上げますとともに、出場される中学校の先生方の熱心なご指導、生徒の皆さんの熱意と努力にも敬意を表したいと思います。

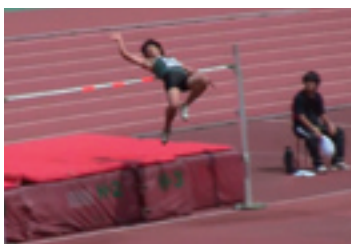


陸上部

トラックシーズンを振り返って

陸上部顧問 茶谷 和彦

東海高校新人で今泉志穂選手(2年)が1500m、3000m共に3位に入り、来年のIHシード権を獲得しました。また、愛知市町村駅伝で名古屋市代表、福井スー



県大会に出場した土屋拓巳選手

パーレディス駅伝では愛知代表にも選ばれました。そして、1500m決勝8位に入賞を果たした猿渡もえこ選手(2年)は瀬戸市代表、また、百島弘基選手(2年)も東郷町代表に連続で選ばれ、みな学校の代表を越えて各地で活躍しています。

一方、県高校新人大会出場の時屋拓巳選手(1年)に負けじと、私学祭で大嶋結衣選手(2年)が200mに挑戦してまだ半年も経たない中、6位入賞を果たし、頭角を現してきました。

これから駅伝のシーズンに入りますが、東邦OBコーチの指導や、OBの激励に応えられるよう、名岐駅伝の出場を目指して陸上部一同精進してまいります。

男子バレー部

全国大会・東海大会出場

男子バレー部顧問 稲葉 益夫



東邦男子バレー部は、初心者または中学時無名の選手だけからなるチームです。私自身も特進コースの担任となって、これまで以上に日頃

の練習に行けないなかで、いくつかの実績をあげていますので、最近の様子をお伝えします。

まず10月に行われた春高バレー名北予選では優勝することができました。レベルの高い名北地区で、現在第一シードを維持しています。また、8月に行われた全国私学大会予選では県ベスト4になり、東海大会に出場することができました。全国大会まであと1勝で

敗退しましたが、この戦績から今年2月に実施される東海大会への出場が決まっており、再び全国大会を狙います。

さらにビーチバレージュニア大会で、県予選を突破し、8月に行われた全国ビーチバレー選手権に出場できました(平手、花村ペア)。この大会で3勝し、全国ベスト8という好成績をあげることができました。今後も期待してください。

水泳部

応援されるチームを目指して

水泳部顧問 牧野 雅司

私は本年度から水泳部の顧問となりました。その短い期間ではありますが、水泳部が多くの方に応援していただき、また支えていただいているということを強く実感しました。

今夏、水泳部はインターハイで沖縄へ行きました。その際、選手の親戚の方が勤められているという縁もあり、貸し切りバスのお世話になりました。その運転手さんは、かつて本校が修学旅行で沖縄に行っていた時に運転をしてくださっていたとのこと。レースの際には観客席まで応援にも来ていただきました。選手もたいへん心強かったと思います。

部活動は、ただ成績がよいというだけで、応援し、支えていただけるわけではありません。それらは日頃の態度や言葉遣い、挨拶などを通して作られる日常の関係があっではじめて得られるものです。選手がそうしたことを理解し、多くの方に応援していただけるチームになれるよう、サポートしていきたいと思います。

情報処理部

「パソコン甲子園」に行ってきました

2年連続で予選を通過し、今年度も福島県会津若松で行われた本選に出場することができました。パソコン甲子園のデジタルコンテンツ部門は、テーマに沿って動画を作成し、本選はそれについてプレゼンテーションを行います。作者は昨年同様3年木戸岡君です。昨年参加して他校の様々な作品を見て刺激を受け、審査員から受けたアドバイスをもとに、今年度は昨年以上に良い作品に仕上がりました。当日は作者が入試のため参加できず、1年生の菅原・西君がプレゼンテーションを行いました。作者の思いを伝えられるように、何度も打ち合わせを行いました。1年生で初めての経験ということもあり、緊張しながらも一生懸命にプレゼンテーションを行ってくれました。1年生にとって

もいい経験になったと思います。

吹奏楽部

あっ晴れ！東邦マーチング♪

吹奏楽部顧問 白谷 峰人

11月3日(水・祝)、吹奏楽部は「第25回国民文化祭・おかやま2010」の「マーチング・パトントワリングの祭典」に出演させていただくことができました。2007～2009年の3年連続でマーチング全国大会に出場したことで愛知県からの推薦という形の出演でした。

本番前日の公式リハーサルではホールの特性を把握し微調整をしました。リハーサル後もいくつかのセッションは外灯の下で練習を行い、部員たちのショーに対するこだわりを垣間見ることができました。ホテルへ入り食事を終えてからも部員たちの士気は上がる一方で、恒例のエアートレーニングはものすごい気迫でした。

そして本番当日。透き通るような青空。まさにあっ晴れ岡山。部員たちのテンションも集中力も最高潮に達し、いざ本番。

最高でした。

賞がもらえるわけでもなく、順位がつくわけでもない。表面上なんの見返りもない中、『お客様の心と東邦マーチングが繋がりますように』という目標達成のために厳しい練習を耐え抜き、己の弱い心と真剣に向き合いながら仲間と共に日々精進した結果でした。

この目標達成が部員たちにとって最高の見返りでした。

今回の国民文化祭出演をきっかけにたくさんの方に東邦のマーチングを知ってもらい、たくさんの方がファンになっていただきました。本当に嬉しいです。このことに慢心することなく、これからもたくさんの方の心と繋がるよう日々精進します。

最後に、いつもたくさんのご支援・ご協力・応援ありがとうございます。これからもがんばります。



岡山の国民文化祭にて

アーチェリー部

「技術」の向こうにあるもの

アーチェリー部顧問 齊藤 卓哉

アーチェ

リー部はテニスコート上の射場で、1年生9人、2年生10人で練習に励んでいます。新校舎竣工の際、立派



長野県白馬村での夏季合宿の練習風景

な射場が完成し、部員は徐々に力をつけてきました。昨年度までは東海大会止まりでしたが、本年度は女子個人枠で2年生の得永美月がインターハイに出場しました。彼女の活躍に刺激を受け、他の部員も練習に余念がありません。

競技スポーツのため、点数が全てですが、十分な練習量を前提としたメンタル面の強さが勝利を決めます。部員にはアーチェリーの技量を高めるだけでなく、競技を通じて不屈の精神を育てて欲しいと思います。

空手道部

苦戦を強いられた秋の闘い

空手道部顧問 村田 悟

創部から、もうじき40年に垂んとする我が空手道部であり、また、インターハイ連続出場30回にも届くかという戦歴もあわせもっている。しかし、その歩はやはり平坦ではない。日々の練習の中にしか答えはないのだ。怪我に悩まされた、と言え事実だが弁解がましい。勝者ともなり、敗者にもなりうる稜線を、意気高く臨むよりない。

10月の新人戦は団体種目は全て準優勝にとどまった。この時期の闘いは、いま一度東海新人大会で勝ち上がるチャンスがある。鹿児島選抜大会を賭けた東海大会に挑んだのだが、苦杯を嘗めざるを得なかった。臥薪嘗胆、まさに苦き思いを嘗め新たな挑戦に向かうしかない。練習試合を次々と重ね、この正月も全国屈指の空手道伝統校と対峙し手応えを掴みに行く。

朗報一本！ 本年度から、正式に第二代に就任した甲斐田監督は、本年12月の全日本空手道選手権大会メンバーに選ばれた。彼のもとで、次期インターハイ予選に臨む。あと5カ月。



男子サッカー部

急願の東海大学サッカーリーグ2部昇格!!

経営学部地域ビジネス学科1年 安井 利彰



私たち男子サッカー部は、藤川監督の指導のもと、日々熱心に練習に取り組んでいます。サッカー部としての歴史は、9年目を終えるところでまだ浅いですが、今確実に力をつけてきています。

本学男子サッカー部は、運動量の豊富さを活かし、全員が動いて組織的にボールを奪い、早く正確にパスを回して攻撃するというスタイルです。

大学の長期休暇の期間には、合宿や練習試合を行い、体力面・技術面・精神面などの向上を目的にいろいろな経験を積みながらレベルアップに励みます。

[2010年度公式戦の成績]

第28回愛知学生サッカー選手権大会予選代表決定戦
決勝 VS 名城大学(1-2●)

※愛知学生サッカー選手権大会予選代表決定戦2位となり、東海大学サッカー選手権大会へ進出

第57回東海大学サッカー選手権大会

1回戦 VS 名古屋学院大学(2-1○)

2回戦 VS 岐阜経済大学(3-6●)

第9回愛知学生サッカーリーグ2位(8勝1敗1分)

※リーグ2位で、チャレンジリーグへ進出

チャレンジリーグ2位(2勝1敗)

※リーグ2位で、東海大学サッカーリーグ2部9位の愛知工業大学との入替戦へ進出

東海大学サッカーリーグ2部9位との入替戦

第1戦(ホーム) VS 愛知工業大学(2-0○)

第2戦(アウェー) VS 愛知工業大学(3-0○)

今年度は、念願だった東海大学サッカーリーグ2部昇格を掴み取りました。

昇格できたのも支えてくださった多くの皆様のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。今後も今まで以上に温かいご支援、ご協力よろしくお願いします。

女子サッカー部

インカシ西日本プレーオフ出場

人間学部人間健康学科4年 横田 理央

私たち女子サッカー部は、今年の目標としてインカ

シ出場と、県リーグ1部昇格を掲げ一生懸命に練習してきました。東海地区予選では、常葉学園大学と中京大学を倒して、東海2位になり、東海地区代表として西日本プレーオフに出場することができました。



創設当時は、人数も少なくサッカーの試合をするには程遠い状況でした。くじけそうになることも何度かありましたが、その都度、家族、教職員の方々、そして何より、少ないながら、同じ目標に向かって切磋琢磨する仲間の支えによって続けることができました。心から感謝しています。少しずつ人数が増え、今ではレギュラー争いができるようになりました。来年は、さらに新入部員が入り人数も増えると思います。後輩たちが、一生懸命に努力して来年こそ悲願のインカシ出場を果たしてくれると思います。今後とも、女子サッカー部の応援をよろしくお願いします。

硬式野球部

硬式野球部秋季リーグ戦結果報告

硬式野球部部長 深谷 和広

皆様の温かいご支援ご協力ありがとうございました。またグラウンドへ直接応援に来てくださった皆様の熱意に感謝しております。硬式野球部秋季リーグ戦(2部)の結果報告をさせていただきます。

10月25日(月)、愛知大学野球連盟秋季リーグ戦(2部)は東海学園大対愛産大戦をもって全日程を終了しました。秋季リーグ(2部)において愛知東邦大学は第5位となりました。また、この結果を受けて、11月6日(土)、7日(日)(東邦大日進グラウンドにて)2部入替戦(対名古屋学院大)が行われました。野球部一同全力でこの決戦に臨みましたが、部員全員の努力も空しく、3部降格となりました。この結果を厳しく受け止め、部員一同また全力で練習に臨みます。引き続き、皆様の盛大なるご支援・ご声援をよろしくお願いします。

吹奏楽団

第一回定期演奏会に向けて

経営学部地域ビジネス学科3年 宮脇 健輔

私たち愛知東邦大学吹奏楽団は今年度で創団4年目を迎え、総勢6人で活動しています。今年度は名東の日や東邦納涼音楽会などの依頼演奏のほか、昨年度に続きオアシス21で行われた吹奏楽フェスティバルに4大学合同バンドで参加したり、愛知県吹奏楽連盟50周年記念演奏会に社会人や中学高校の先生方と50周年メモリアルバンドとして参加するなど、学外の団体と



の交流も積極的に行いました。また、夏には長野県にある学園所有の「うるぎ山荘」にて合宿を行いました。合宿3日目にはミニコンサートを開き、多くの村民の方に演奏を聴いていただきました。現在はアンサンブルコンテストで東海大会進出を目指すと同時に、3月20日(日)に愛知東邦大学体育館で開催を予定している第一回定期演奏会の成功に向け団員一同日々努力しています。皆さんぜひお越しください。

軟式野球部

急願の一部昇格！

軟式野球部顧問 村松 芳紀

本学の軟式野球部が11月14日(日)に一部リーグとの入れ替え戦に勝利し、急願の一部昇格を果たしました。声援してくださった皆様に心からお礼申し上げます。

来年度の目標は一部リーグでの上位、さらには全国大会出場を目指していきます。

これからもチーム一丸となり頑張っていきます。今後とも応援をよろしくお願いします。

茶華道部

表千家の講習会を受けて

経営学部地域ビジネス学科4年 森野 史裕

私は、大学の茶華道部に所属しています。今年の夏に表千家不審庵が主催する講習会に参加しました。この講習は、25歳以下の「茶道表千家習い事」免状を取得していることが参加の条件です。京都の妙顕寺に一週間宿泊しながら表千家でお稽古を受けました。

お茶のお稽古に始まり、歴史・茶道具の講義の中で一番印象に残ったのは正座です。お稽古は、クーラーも扇風機もない場所で、毎日7時間30分あり室温は40度近くありました。講習中は、正座のため二日目には足が悲鳴をあげていました。正直帰りたくなったぐらいです。しかし、厳しいお稽古を積むことで精神修行にもなり、多くの仲間もできました。大学生の最後の夏休みに日常から離れ貴重な経験ができ、本当に行って良かったと思っています。



大学お茶会にて

愛知東邦トレーナー組織

大学祭名物になったATTOマッサージ

人間学部人間健康学科2年 三村 翔一

私たちATTO(Aichi Toho Trainers' Organization)は、部員45人で活動しています。活動日は毎週火曜日と木曜日の5限目以降の時間で、執行部を中心に勉強会を企画・運営し、トレーナーの知識として解剖学や生理学、また応急処置やマッサージ、テーピングなどの現場に必要な知識やスキルを習得しています。後期は11月にある大学祭に向けて、解剖学や生理学で学んだことを生かしてマッサージの練習を繰り返し実施しました。



大学祭でのマッサージ

大学祭当日は、多くの学生、教職員の方々や地域の方々に来ていただき、昨年以上の成果を上げることができました。また、今年も昨年と同様に大きな反響を呼び、「気持ち良かったよ。ありがとう」などの声をお客さんからいただき、感謝される喜びを得ることができました。大学祭は、普段ATTOや授業で学んだことを実践する貴重な機会なので、次年度はさらにステップアップできるように頑張りたいと思っています。



勉強会での解剖学復習

フリースタイルサークル

Free Style is Enjoying★

人間学部人間健康学科3年 角 朋香

11月21日(日)、愛知東邦大学の大学祭に私たちフリースタイルサークルも出演しました。

オープニングから始まり、1つ1つの作品を楽しみながら踊ることができました。エンディングに近づくにつれ、今までにないくらい盛り上がり、「全員が1つになれた」という感覚はたまりませんでした。

たいへんな時がたくさんありましたが、全員で乗り越え、たくさんの方々に応援、支えてもらうことができたからこそ成功できたと思います。

来年の大学祭では更にパワーアップした姿を見せられるようにパフォーマンスに磨きをかけ頑張ります。



パートナーシップ・インフォメーション

フレンズ・TOHO設立15年 会報「みどりの風」も30号に

フレンズ・TOHO事務局長 長谷川 明



大学構内をヨチヨチ歩く子どもと、その世話をする子ども発達学科の学生たち。幼稚園教諭

や保育士をそだてる大学らしいワンショットです。大学図書館で開催されている「賢い子どもを育てる—子育てで真ただ中の皆さんへ—」(講師 古市久子 教授。3回シリーズ)に集まった受講生のお子さんたちです。子育て中のママは、子どもをおいて家を空けることはできず、「子連れで講演を聴くことも難しい」。こんなママに出てもらう企画には「託児が欠かせない」ということで、「お子様を預ります」としました。この企画に定員(20人)一杯の申込みがありました。

「世界遺産の熊野古道馬越峠を歩く」(10月23日)は、26人が参加しました。また来年2月には、法人会員の皆様に対象にした第3回「名刺交換会」を開催します。

東邦学園「フレンズ・TOHO」は、中間総会(11月12日)に会報「みどりの風」30号を発行しました。15年の経過を示す30号です。この間「フレンズ・TOHO」の発起人の中には、他界された方もいらっしゃいます。世代交代の時期を迎えています。

私立学校にとって、財政をはじめ多方面で各界の団体・個人の応援をいただくことは、私学の精神からいっても当たり前のことです。しかし、たいへん難しいことでもあります。学園のパートナー「フレンズ・TOHO」の意義と役割を学園に関係する皆様に一層ご理解をいただいて、「フレンズ・TOHO」の発展にご協力をお願いしたいと思います。

大学・短大同窓会—総会開催を控えて

邦友会事務局 稲垣 ゆかり

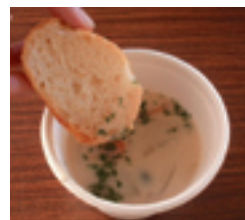
邦友会では今年度も大学祭に参加・協賛しています。

大学祭への参加は各役員の負担が大きいため少人数での参加となりましたが、年中行事の一部として定着してきているので、協力してくれた役員は楽しく参加

できました。

今年も21TOHO教育充実事業募金に微力ながら協力させていただきました。

また、来年度は総会の開催年にあたります。大学側の協力のもと、大学キャンパスでの開催を目指しています。その際には現在作成中の東邦学園短期大学43年の歴史を綴った記念誌を、皆さんにお届けできる予定です。同窓会事務局として記念誌作成にご協力いただいた皆様方に、この場を借りて御礼申し上げます。



模擬店に参加
1日目のクリームシチュー
2日目はトマトシチューでした

新しくなった東邦会ホームページ 東邦高校生の活躍や恩師の近況も掲載

東邦会事務局

今春、東邦高校の同窓会組織「東邦会」が運営するホームページをリニューアルしました。ホームページは日本国内だけではなく、世界中の同窓会員に情報を伝えることができる有効な手段です。これからの同窓会活動を積極的に展開したいという思いを込めてリニューアルしました。

今回のリニューアルでは、みなさん楽しんでいただけるよう、①携帯電話からでも気軽に見られること②会員からも情報が発信できるような相互交流の場とすること③東邦高校の校歌や、高校内やイベントを見ることができる動画を用意しました。

卒業生には高校時代を懐かしむ校歌や、2007年に平和が丘の地に新しく立て直された新校舎、代議員会も動画でご覧いただけます。

また、リアルタイムの東邦高校を伝えるものとして、同窓会の事務局スタッフによる「事務局のひとりごと」というブログも始めました。多くの方から好評いただいています。日々の学内の出来事を写真と共にみなさまにお伝えしていることから、ブログを楽しみに閲覧者のリピーターも増えています。時には、高校から外に出て平和公園の様子もお知らせしています。

みなさん、ぜひ一度東邦高校の同窓会「東邦会」のホームページに遊びに来てくださいね。

<http://tohokai.com/>

お知らせ

東邦学園キャラクターの 名前を募集中！

東邦学園キャラクター
が決定しました。作者は
東邦高校1年 山田 明日
香さん。



正式にデビューさせる
ため、可愛くて親しみやすい名前を募集します。

【応募方法】

電子メールにて氏名・東邦との関係・命名の理由・連
絡先を明記のうえ、下記申込先へメールでご応募くだ
さい。入選された方にはささやかな賞品を進呈します。

【申 込 先】s-koho@aichi-toho.ac.jp

【締 切 日】2011年1月末日

東邦学園同窓生 特別入試

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大
学・東邦高等学校の卒業生の子、または在学生の
きょうだいに対して特別入試を実施します。

特典として愛知東邦大学の入学金が半額となり
ます。一般入試と比べ条件も有利です。ぜひこの
機会にご利用ください。

【Ⅲ期 出願期間】

2011年1月28日(金)～3月2日(水)

【お問合せ】

愛知東邦大学 入試広報課

電話：052-782-1600(直通)

15周年 を迎えた 東邦学園名東コミュニティカレッジ

女性の自立支援活動として

本学の社会人講座「東邦学園名東コミュニティ・カ
レッジ(通称：TMCC)」が、今期で30期、満15年を
迎えました。1996年5月に東邦学園短期大学創立30周
年を記念して始められたこの講座は、多くの大学で開
かれていた社会人講座と違って「女性の自立支援」と
いう明確な目的を持っていました。

女性の社会進出が今よりも軽視されていた時代に、
男女が本当に平等になるためには経済的あるいは社会
的役割として「女性の自立」が重要であるという、
明確な考えに立って企画しました。併せて、短大創設
30年を経て初期の卒業生も社会人として中堅になり、
そうした卒業生に新しい知識や情報を提供する必要性
も議論しました。この年の卒業生が562人、入学生が
528人、トヨタへの採用者が毎年10人前後という時期
でしたから、卒業後もそれにふさわしい知識や情報を
求める声もあったようです。

女性支援、地域活動、コンピュータ

TMCCは、初回から今日まで、半年を1期として各
種の講座が組まれてきました。初年度の講座は、女性
自立の理念と具体的方法を講義する「女性自立コース」
と、インターネットと地域診断の技法を教える「地域

活動支援コース」の4講座でした。

中でも「女性の自立支援」は、大学内に「女性の自
立支援センター」を開設して、自立の具体的方法や異
性などから暴力を受けた人への相談業務などの支援体
制を備えた、本格的な支援活動でした。

コンピュータの方も、本学は、中部地域の短大の中
では1、2を争う早い時期(1986年)からコンピュータを
導入し、単独の短大としては日本で最初にインターネット
に接続した大学でした。最初の講座では受講者同士
が日夜メールのやり取りすることを実施しました。間も
なく、全学生にパソコンを貸与するという思い切った
措置を取るなど、全国的に見ても本学は先駆的な短大
でした。TMCCの講座は、こうした当時の最新技術を
地域や卒業生にも広げる企画でした。開講するとたい
へんな人気で、再三臨時講座や特別講座が開かれました。

文化・教養型講座への傾斜

2001年には四年制の東邦学園大学(現愛知東邦大学)
が開設しました。そこで、文化教養型と経営者教育型
の講座を組み合わせることで開設することが試みられまし
た。しかし経営講座には受講者が少なく、その後は每期1
、2講座にとどめるようになり、近年は文化教養型講座
を中心とした企画で運営されています。

お詫び

東邦キャンパスvol.110に誤植がありました。訂正いたします。

5ページ左下『高校入学式』(誤)新入生430人→(正)新入生530人

TOHO gallery 東邦ギャラリー

高校 体育祭・文化祭



大学祭 フリースタイル
(関連記事 17 ページ)



大学祭 KIDS広場
(関連記事 6 ページ)



高校 河西省旅行団来校
(関連記事 10 ページ)



未来の芸術家たち展
(関連記事 10 ページ)



大学で開催された
スポーツシンポジウム



大学 男子サッカー部
(関連記事 16 ページ)

